

30amG-110

病院実務実習における臨床研究体験実習の導入と評価

○高橋 克之^{1,2}, 須田 泰記¹, 川口 博資¹, 中村 安孝¹, 西川 武司¹, 永山 勝也¹
(¹大阪市大病院薬, ²大阪市大院医)

【目的】高い臨床能力を持った薬剤師を養成するため、長期実務実習が始まり、コアカリキュラムに基づいた実習が行われている。高度化する医療において、薬剤師の果たす役割は増しており、各分野の認定・専門薬剤師や指導薬剤師制度が発足し、その制度下では研究能力が求められている。このようなことから実務実習において臨床研究を体験することは有用であると考えられるが、実務実習コアカリキュラムにおいて臨床研究の項目は設定されていない。そこで大阪市立大学医学部附属病院では研究意識をもった薬剤師を養成するため、2011年度より希望者に対し、臨床研究体験実習を導入し、その有用性をアンケートにて評価した。

【方法】2011年4月から2012年10月までに当院にて長期実務実習を開始した薬学部生を対象とした。対象者全員に実務実習開始2週目および終了時に臨床研究に関する意識や知識（EBM、倫理、統計、情報検索）について任意のアンケートを行った。また希望する学生に対し、臨床研究体験実習を行った。

【結果】対象学生は19名であった。アンケートの回収率は100%であり、16名が臨床研究体験実習を希望した。実習の結果、臨床研究に関する知識はEBM:5.2点→8.9点（10点満点）、倫理:4.5点→5.3点（6点満点）、統計:5.6点→8.5点（10点満点）、情報検索:4.4点→6点（6点満点）へと上昇した。また体験実習の満足度は4点（満点5点）であり、今後の継続については全ての学生が継続をした方が良いと答えた。

【考察】臨床研究体験実習の導入は一定の効果を示し、早期に研究の意識づけを行うことができると考えられた。今後はさらにカリキュラムの検討を行い、質の高い実務実習を行いたいと考えている。